

『時事直言』 No.1403 2020年6月29日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[twitter 日本語] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T_Masuda_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

ボルトン暴露本と日本のイージス・アショア撤回

私はかつてトランプ大統領の安全保障担当補佐官であったボルトン氏とはテルアビブ(イスラエル)での安全保障関連の会議でお会いしたことがあるが、話の途中手早くメモを取るなど生真面目な方だという印象がある。The room Where It Happened: A White House Memoir (それが起きた部屋: ホワイトハウス回顧録)についての出版予告インタビューで在任中の記録が全て破棄されているのにどうして 500 ページの本が書けたのかと聞かれると、「私は生まれつき記憶力が良いからだ」と答えたそうだが「メモ魔」だからだと思う。

日本に関係したことで、在日米軍駐留費の日本側負担、俗にいう「思いやり予算」について述べている。2019年5月のトランプ・安倍首脳会談で訪日したトランプは立ち話で安倍に「日本の負担を4-5倍に増やさないと米軍は日本から引き揚げるよ」と冗談めいた(非公式に)話をした。ボルトン補佐官は同年7月に訪日(正式に)、日本側(安倍、菅等)にトランプ大統領は年80億ドル(約8,500億円)を望んでいると伝え、自分は言われた数字を述べただけでトランプ自身が満足する額は別だと述べた。実際に日本が払っている思いやり予算は1993億円だからとんでもない要求である。最新型迎撃ミサイルであるイージス・アショア採用を決めたのは2017年、契約金額は1,787億円が必要経費など加えると思いやり予算とほぼ同額になる。日本がイージス・アショア採用を決めたことはボルトンをはじめトランプと敵対関係にある軍産強硬派で日本と同じく米朝会談決裂と日本の対中軍事緊張を望む勢力に従ったことを意味し、日本がトランプに強く対朝CVID(完全で検証可能かつ不可逆的な非核化)を求めた所以である。同年9月外務大臣であった反主流派の河野太郎が防衛大臣に任命されたことは日本の対朝指針変更を意味した。イージス・アショア白紙撤回で十分な違約金を米軍事産業に払い経済的に文句は言えなく、かつその予算を思いやり予算増額に使うと同時に「色」を付けることでトランプの合意を得た。トランプは安倍内閣が軍産支配から脱したことに満足。中国も北朝鮮も日本がイージス・アショア撤回で対日ミサイル迎撃抑止力を放棄したことを歓迎、北朝鮮は攻撃の矛先を日本から韓国に集中することになった。アメリカは韓国とは日本のような取引はせず、在韓米軍負担5倍を譲らず、国民に米軍撤退運動を起こさせている。トランプは最早米朝対談に文在寅大統領の干渉は好まず、金正恩は孤立した韓国に軍事攻勢をかけようとしている。文在寅は哀れにも対日敵視高揚以外に道がなくなり自滅寸前。

いづこも「バカは死ななきや治らない」のが政治の世界。

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！

1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料で視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4~6回になります。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。